

医療維新

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～



“まちづくり系医師”のチャレンジ

レールのない道で地域と支え合った10年 -テーマ2「地域包括ケア」Vol.1-

オピニオン 2018年6月8日(金)配信 JCHO若狭高浜病院・高浜町国民健康保険和田診療所 非常勤/福井大学医学部地域プライマリケア講座 教授 井階 友貴

JCHO尾身理事長が語る「テーマ2『地域包括ケア』」はコチラ

井階 友貴 Tomoki Ikai

JCHO若狭高浜病院・高浜町国民健康保険和田診療所 非常勤
福井大学医学部地域プライマリケア講座 教授

【略歴】兵庫県出身。2005年滋賀医科大学医学部卒業し、済生会滋賀県病院での卒後臨床研修後、兵庫県立柏原病院勤務を経て、2008年から高浜町国民健康保険和田診療所に所属しJCHO若狭高浜病院での非常勤医師としての勤務も開始した。2009年に福井大学医学部地域プライマリケア講座の助教に就いて以降も、両医療機関で勤務を継続。2012年4月に同講師へ昇進、2018年4月から現職。

【所属学会・取得資格等】日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本在宅医学会認定在宅医療専門医・指導医、日本医学教育学会認定医学教育専門家。



福井県の西の端、高浜町に赴任してはや10年が過ぎました。兵庫県の山の中で育ち、自然と地域医療への関心を持って入学した医学部でしたが、ロールモデルや地域医療の現場を見る機会は少なく、今年度ようやく道筋が付けられつつある「総合診療専門医」のようなキャリアプランも明確ではなかったため、初期研修終了後、私は内科医の道を歩み始めました。地域の中核病院は当時、医療崩壊の真っ只中。地域中核病院と内科学の役割の重要性を痛感しつつも、紹介患者の入院診療と逆紹介の業務は、医学部入学時の地域医療のイメージとは大きく異なるものでした。そこで、生活の中にある医療を求めて、知人の先生に地域医療を教えてもらえるところをお聞きして廻ったところ、ある先生にご紹介いただき、当時より福井大学と連携して地域医療教育を行っていた高浜町に赴任したのです。

高浜町に赴任以来、町内唯一の病院であるJCHO若狭高浜病院（急性期40床）と町内唯一の在宅療養支援診療所である高浜町国民健康保険和田診療所（無床）を行き来しながら、高齢者や他の年代のよくある健康問題への対応、無医地区への巡回診療、内視鏡当番、救急当直といった臨床業務をこなしています。赴任当初は、1～2年間の地域医療研修のつもりでございましたが、赴任した2008年は高浜町の医師不足がピークを迎えていたことや、町長選で地域医療改革をマニフェストに掲げていた現職の野瀬豊氏が初当選したこともあり、2009年には福井大学医学部に市区町村単独では全国初となる医学部寄附講座「地域プライマリケア講座」が創設され、その教員として引き続き町の医療と向き合うこととなりました。

医師不足解消のため地域医療教育の充実に取り組む傍ら、まず着手したのが、住民へのアプローチでした。というのも、高浜町に赴任してまず気付いたのが、町の医師が次々と退職して危機的な状況なのに、住民からは危機感を感じていないことだったのです。本来、地域医療の主役は住民であるべきなのに、行政や医療者に任せっぱなしで、自分たちの医療がどうあるべきかを考えたり、そのために行動したりする動きは全くありませんでした。そこで、地域の主役である住民ができることを模索し実行するための住民有志団体の立ち上げを支援し、2009年9月9日に「たかしま地域医療サポーターの会」が誕生したのです。サポーターの会は、住民として地域医療を守り育てるために取るべき行動を示した「『か』で始まる5か条」を提言し、住民の立場で住民に普及する活動を展開しました。

【5か条】

- ・ 関心を持とう（医療に）
- ・ かかりつけ医を持とう
- ・ からだづくりに取り組もう
- ・ 学生教育に協力しよう
- ・ 感謝の気持ちを伝えよう

結果として現在は、サポーターの会の活動を知っている住民ほど、▽かかりつけを持つ▽健診を毎年受診する▽健康づくり活動を行う——などの健康的な行動を取る人が多いことが分かっており、住民主体の医療づくりが実現したと感じています。その後、幸い医師の数も回復し、地域医療崩壊の危機は何とか乗り越えました。

しかし、ほっとしたのもつかの間、時代は移り変わり、地域の現場では「医療崩壊」から「2025年問題」、ひいては「消滅可能性都市」といった、地域医療というよりは、地域そのものへと、問題の主眼が変化してきました。そこで、“住民主体の医療づくり”から“地域主体の健康のまちづくり”へと視野を広げ、まちなかコミュニティスペースでの地域主体の市井会議「けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ」（通称「健高カフェ」）や、“理論×実践”“広域多職種連携教育”で健康のまちづくりを学び、まちの気持ちがわかるまちの救世主を育成するセミナー「健康のまちづくりアカデミー」、健康に詳しく、生活の現場で地域のつながりを醸成できる住民を育成する「健康マイスター養成塾」、「条件・負担なし”でも”利点・楽しさあり”の自治体連合制度「健康のまちづくり友好都市連盟」などの活動を展開しています。



「健康カフェ」参加者らと（中央左手前が筆者）

その中で、2014年には地域と健康の在り方を追究する社会疫学を海外で学ぶ機会を得、2015年には高浜町から「健康のまちづくりプロデューサー」の委嘱を受け、2018年には地域プライマリケア講座の教授を拝命しました。現在では、住民、行政、ヘルスケア専門職、大学の間を取り持つコーディネーター的町医者として勤務しています。

レールのない道を歩む

当初1～2年の勤務のつもりで高浜町に赴任しましたが、気が付けば早10年もお世話になっています。私をそうさせたのは、町の医療を何とかするという役割・責任と、とにかく温かく支えてくださる住民・行政の皆さんなのだと思います。レールのひかれていない道を歩むことに不安を感じる方も多いと思いますが、逆にまたとない貴重な経験をさせてもらっていると捉え、現在の“まちづくり系医師”の仕事を楽しく取り組ませていただいています。そんな状況なので、長年手探り状態の取り組みに、不安を感じることも多々ありますが、根拠を大事にしつつも、地域にとって直感的に良いと思えることはどんどんチャレンジしています。課題はこの先の急激な人口減少に耐えうる地域となることですが、この世界のどの国も経験したことがない重要な局面を生きられることに感謝しつつ、ワクワクしながら取り組んでいる次第です。

レールのない道の上で、直感的なチャレンジを楽しむような取り組み方をしているので、毎年、来年の自分が何をしているのか、全く想像が付きませんし、実際に振り返ってみると、1年前には到底思いもよらなかったことをしている自分がいます。自分は将来、どうなることを目指しているのだろうか・・・目指している“立場”はないですが、間違いなく思うことは、どんな立場でいても、地域と関わってともに支え合えるような、そんな人間でありたいということです。

地域社会は役割分担で成り立っています。これから自分の専門を持ち、目指すべき医師像を形成していく医学生・研修医の皆さんには、どのような道に進もうとも、ぜひこの「地域の中の自分の役割」という感覚を持ち続けてほしいと願っています。きっとそれが、医師としての“深み”を与えてくれると信じています。

<参考URL>

- ・福井大学医学部地域プライマリケア講座ホームページ
<http://www-n.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/primary/>
- ・たかはま地域☆医療サポーターの会
<https://www.facebook.com/acahun/>
- ・けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ（健高カフェ）
<http://www.facebook.com/kenkocafe.takahama>
- ・健康のまちづくりアカデミー
<http://kenko-machizukuri.net/academy>
- ・健康マイスター養成塾
<http://www.facebook.com/kenkomeister>
- ・健康のまちづくり友好都市連盟
<http://kenko-machizukuri.net/friendship>
- ・健康のまちづくり・たかはまモデル
<http://kenko-machizukuri.net/takahamamodel.pdf>

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ ▶